

MUSABI *information*

Musashino Art University Information

August 2021

特集 学長メッセージ

ムサビで鍛える「創造の持久力」

長澤忠徳

2 創刊にあたって

5 学科紹介 [日本画学科]

7 授業紹介 [造形総合科目・文化総合科目]

8 mauleaf

9 卒業生紹介／キャリア情報

10 NEWS [感染症対策・インフォメーション・展覧会情報]

12 2021年度学事予定／お問い合わせ先



保護者向け情報誌

『MUSABI information』

創刊にあたって

この度、武蔵野美術大学では、保護者の皆様に
本学の情報を届けするため、
保護者向け情報誌（本誌）を創刊いたしました。
誌面では、本学が有する様々な学科や
個性豊かな授業、卒業後のキャリア支援、
授業外での社会連携活動等の他、
大学で開催される展覧会やイベント等の
活動について紹介していきます。
本誌が大学と保護者の皆様との
コミュニケーションツールとして機能し、
本学活動のご理解の一助となれば幸いです。

武蔵野美術大学 広報チーム



長澤忠徳
NAGASAWA Tadanori

1953年 富山県生まれ
1978年 武蔵野美術大学造形学部
基礎デザイン学科卒業
1981年 Royal College of Art, London修士課程修了
MA (RCA) 取得
1999年 武蔵野美術大学造形学部
デザイン情報学科教授就任
2015年 武蔵野美術大学 学長就任
専門分野：
デザインプロデュース
デザイン評論
デザイン教育
デザイン戦略立案

特集 武蔵野美術大学 学長メッセージ

ムサビで鍛える「創造の持久力」

武蔵野美術大学 学長

長澤忠徳

世界中が、新型コロナウイルス感染症に翻弄され続けて、一年半。ようやくワクチン接種が始まつたとはいえ、終息が見透せない状況が今も続いています。政府と東京都の感染拡大防止措置の制約を受けながらも、「ムサビ生の学びを止めない!」を合言葉に、本学は、今も独自の学生支援策を継続しています。

昨年度は、新年度開始の前に学事日程を組み直し、通常よりも8週間多い授業時間を確保しました。6月には、徹底した感染防止対策を講じながら、まず卒業・修了年次生がキャンパスで卒業制作に取り組めるように入構させ、演習・実習等の授業については、対面授業の対象を在学生全員に拡大しました。一方で、事情があって登校できない学生や入国できない留学生に対応するため、オンライン

イン型と対面型を併用するハイブリッド型で授業を行いました。

長引く感染拡大の状況に、「本当に学びは止まらないのか?」と、保護者の皆様も不安な毎日を送られたことかと思いますが、今年3月に実施した卒業・修了制作展では、立派な成果を披露することが叶い、この未曾有の困難な中においても、ムサビ生の「創造の持久力」の確かな存在を、私たちは改めて確認することができました。

急に訪れた不自由な状況の下、パソコンやインターネット環境の整備や慣れない遠隔授業に戸惑い、大変な思いをした学生も少なくなかったと思います。保護者の皆様におかれましても、学生の皆さんのが修学について大変なご心配やご負担をおかけいたしました。しかし、とくに大きなトラブルも無くこの困難な時期を乗り越えることができ

ていますのは、ひとえに学生の皆さんと保護者の皆様のご理解とご協力あってのことであり、この場を借りて心より御礼申し上げます。

今年度の授業は、通常の学事日程に戻して、昨年度の経験を生かし、キャンパスでの対面型を主軸としつつ、オンライン型を併用するハイブリッド型で実施しています。

昨年度以来、急変した事態に、倍する苦労を厭わずに授業準備し対応する教職員の努力は並々ならぬものですが、学生へのアンケートでも、講義科目等のオンデマンド型のメリットも確認でき、困難な状況下、模索しながら見出した新しい教育方法の可能性も広がってきてています。オンライン型での演習・実習系の授業についても、本学独自の取り組みが評価され、文部科学省関連の情報誌で、そのノウハウを連載するなど、注目を集めています。

美術大学で欠かせないのが、アトリエやスタジオなどの制作を伴う授業です。作品を前に、先生方から講評を受け、仲間と議論する「創造のプロセス」は、美大ならではの学びの資源です。また授業以外でも、大学生活で仲間や先生と出会うことが、人生におけるとても大切なことであることを、私たちは十分認識しています。一方で、オンライン型コミュニケーションは、広く社会のスタ

ンダードとして定着し始めており、今後は、ニューノーマルと言われるように、社会も大きく変化してゆくことと思います。余儀なくされて対処せざるを得ない困難は、新たな可能性を開く契機であり、このコロナ禍を乗り越えて次代に活躍する学生たちは、今、ムサビでの学びの中で、ポスト・コロナに向けた新たな価値観と方法を培っています。

本学は、次代に活躍するムサビ生の「創造の持久力」を鍛えるため、万全の感染防止対策を講じながら、今後も学生の修学支援に全力をあげて取り組んでまいります。

我が国を代表する美術大学として、ムサビは、対面型とオンライン型の両方を駆使する新しい学びのあり方に対して、率先して「欲張り」でいたいと思います。

保護者の皆様には、新型コロナウイルス感染症対策への本学の「ムサビ生の学びを止めない!」取組みや、学生の皆さんの教育の継続につきましてご理解いただき、今後とも変わらぬご支援ならびにご協力を賜りますよう、よろしくお願ひいたします。

最後になりますが、保護者の皆様はじめご家族のみなさまも、時節柄、感染防止対策を含め、ご自愛くださいますよう祈念申し上げます。



工房やアトリエでは感染症対策を実施して、制作活動を行っています。

日本画学科

日本画学科は1929年に帝国美術学校創立と同時に発足し、今まで幅広い美術教育を行い、広い視野をもった人材の育成を目指してきました。日本画は長い伝統と独自の造形思考と優れた材料、技法によって世界の美術の中でも個性的な存在であり、その絵画性は現代においても新たな可能性を秘めた表現領域として期待されています。

本誌では、毎号一つの学科を取り上げ、その学科内で行われている授業やアトリエ・工房等の施設、所属教員をご紹介いたします。

授業紹介

「自主制作、展示ゼミ」(3年次から4年次生にかけて)

こちらの授業は3年次後期の授業です。この授業を迎えるまでは与えられた課題を通して造形の基礎や表現の可能性を探って制作を行ってきましたが、この時期からは自主的な制作へと進みます。試行錯誤をしながら失敗を恐れず、積極的に自身の制作へと突き進むことが求められ、学生ながらも作家性を養う授業となります。

制作を通してより自己と向き合い、社会と向き合うことで、表現することの意味まで関わることのできる題材を探すこととなります。自身とは何か。自らのルーツを辿りつつ、我々にとっての絵画とは、日本画とは何かを問いかね、自らの表現の可能性や方向性を考える大切な授業です。

こちらの授業で制作された作品は、大学院2年生の先輩とともに新4年次の始めに12号館地下の広いスペースで学内外に向けて展覧会を行います。



「12号館地下1階での展覧会」
新大学院2年生と新4年生による合同展覧会です。新学期始まってすぐの展示で、ここでは描くことに加え、作品を出品することにより展示空間を通して「見せること=魅せること」について学びます。



左：会期中には、学内外より特別講師をお招きし、学生とのディスカッションによるトークイベントや講評会を催し、自らの制作に対しての客観性を養います。

施設紹介



上：アトリエは学生が制作するための部屋であると同時に、同級生や教員との交流の場でもあります。

下：古典技法・素材研究室では、絵巻物や古典絵画の模本を数多くとり揃え、学生たちは自由に模本を見ることができ、また模写することができます。

研究室からのお知らせ

- 日本画学科研究室では今年の4月から間島秀徳先生が着任されました。間島先生が担当されている3年生の授業では学生が作家について調べて発表を行うなど、早速新しい試みが始まっています。
- 今年の3月にはUNPEL GALLERY（日本橋）にて研究室スタッフ4名によるグループ展を行いました。今後もスタッフや卒業生による作品発表の場として継続していく予定です。



スタッフ展の会場風景

左：会期中には、学内外より特別講師をお招きし、学生とのディスカッションによるトークイベントや講評会を催し、自らの制作に対しての客観性を養います。

日本画学科専任教員の研究内容

岩田壮平 教授**教員メッセージ**

はじめまして。日本画学科で教員をしています岩田壮平です。

ムサビの日本画学科では、日本画を通して、様々な表現を試みるプロの作家で教員が構成されています。

また、その他にも美術批評家の先生方もおられ、常にそれら多岐に渡る教員の全てが、学部1年生から大学院生までの各教室を満遍なく巡りながら、自らが行う表現の研究や経験を通して、学生達の作品制作、そしてそれぞれに希望する未来へ向けてのサポートをしています。

大学とは高校までと違い、教員から一方的に教わることを待つのではなく、自発的な探究心を持って自己の表現を模索し研究をするところです。

日々出会う教員や先輩、同級生とのディスカッションや他愛もない雑談も含めて、コミュニケーションを自ら進んで持つこと、これが、作品制作は勿論のこと、その発想の原点となる人間性を培うことへ繋がると信じています。

われわれ教員もまた、学生達と生活と共に送ることで、自らへ通じる新たな驚きや、未だ観ぬ可能性を学生達の中に発見し嬉しくなります。

この様な互いの学びの機会となる場をどれだけ多く学生達に提供出来るか、ムサビの日本画学科では常々思案しています。



「濤」 100.0 × 200.0 cm 岩絵具、水干絵具、金泥、雲母、箔、膠、樹脂膠、樹脂紙 2015年制作

岩田壮平
IWATA Sohei

1978年 愛知県生まれ
1981年 華道「池坊」入門
2002年 金沢美術工芸大学大学院
美術工芸研究科修士課程
絵画専攻修了
2017年 本学着任

教員の研究内容

〔岩田壮平画集「cycle」——この発端。より〕

——祖母は散歩に行くと、道端や畠、公園や民家の花壇に咲く花々の名前や由来を、まだ2歳の私に聞かせてくれた。神秘的な色やかたちをした花々、私はそれらを手に取りたいと、祖母にねだった。すると祖母は、摘んでも良さそうな花を選び「ごめんなさいね」と呟いては、小さな掌にそっと握らせてくれた。この頃が、「花」や「日本画」との出逢いの時期だったと思う。

3歳になると、私は祖母に付き添われて生け花を習い始めた。18歳まで続けたが華の道は選ばず、高校3年で美大を志し、金沢にある美術大学の日本画学科に進学した。馬手の花鉢は絵筆へと移り変わっていたのだ——。(中略)

——この世の相反するもの、たとえば聖と俗、動と静、陰と陽、そういった要素が分かれ難く絡まりながら、生命エネルギーが循環する。そんなエネルギーの有りようを、私は花の姿に託してきたのかもしれない。幼き日、私が花に見ていたものは、色や形の美しさだけでなく、そういった生命の循環だったかもしれない。さらにその循環は私の内なる世界にもあってシンクロし、画面の上で不思議な絆を結ぶことになる——。



岩田壮平 教授



「雪月花時最憶君——花泥棒」 200.0 × 1000.0 cm 岩絵具、箔、雲母、膠、樹脂膠、絹本 2014年制作

授業紹介

造形学部には、自身が所属する学科別専門科目のほかに、
2種類の授業科目があります。その授業内容の一部をご紹介します。

造形総合科目・文化総合科目

- [造形総合科目] 自身の専門とは異なる領域や、他学科が開設する授業を学ぶ科目です。学科の枠を超えた交流や発見が得られる、本学ならではの特徴的なカリキュラムです。
- [文化総合科目] 全学科対象の、広く一般の諸学問を学ぶ授業科目です。美術・デザインの各領域はもちろんのこと、人文・社会・自然の各分野から、外国語・保健体育まで、約750科目開講しています。

造形総合科目

絵画I

共通絵画研究室

大浦一志教授 原一史教授 山本靖久教授 他

共通絵画研究室は、主に本学の初年次における造形の基礎を担当する教育単位です。必修の「絵画I」は日本画学科、油絵学科以外の全ての1年生が絵画制作を通して、自分が所属する美術・デザインの各領域の位置付けや、基礎を再認識するために設けられたカリキュラムです。学生自らが力を合わせてアトリエに搬入した大きなモチーフを「見て、感じて描く」ことを基本とし、その表現に全力で「挑戦」することで、それぞれの学生に潜在する資質や個性と出会う「未知なる自己の発見」を目指します。モチーフを前に、五感を総動員して対象を感じる力、自己を自由に解放する力、既成概念を打ち破っていく力の獲得を試みます。この授業で得た経験が、目まぐるしく変化する社会の後追いではなく、変動する社会に流されることなく、将来に渡って「自己の専門性を支える礎」となることを願っています。

共通絵画研究室は、常に現代の視点に立って、造形の本質にふれられる制作のあり方を模索し続けています。



芸術文化学科1年のアトリエでの制作風景 [モチーフ: 石]



工芸工業デザイン学科1年のアトリエでの制作風景 [モチーフ: 廃棄自動車]

文化総合科目

宇宙の科学I・宇宙の科学II

教養文化・学芸員課程研究室

宮原ひろ子教授

宇宙の科学Iでは、宇宙の誕生や終焉、太陽や惑星や月の形成、そして地球外生命の探索など、宇宙科学の基礎を幅広く学びます。授業後は、宇宙や科学をモチーフに作品を制作する学生の個別相談にも応じています。また、宇宙の科学IIでは、宇宙ステーションや人工衛星など、宇宙開発や宇宙利用に関連する科学や技術について学んでいきます。普段、宇宙のことを意識する機会はあまり無いかもしれません、私たちの生活は、宇宙空間を周回する人工衛星によって支えられています。天気予報やカーナビ、BS放送などがそうです。また、次世代のロケットや宇宙船の開発が進み、人類は再び月へ、そしてさらには火星へと向かおうとしています。授業では、最新の宇宙ニュースにも触れながら、社会と宇宙との関わりについても理解を深めています。

宇宙の膨張はどのように発見されたか

速く遠ざかるほど

- 救急車：音の波長が伸びる（低くなる）
- 星の色：色の波長が伸びる（赤くなる）



恒星から出る光の色（スペクトル）

恒星の光には、材料物質が
出す輝線が混ざっている

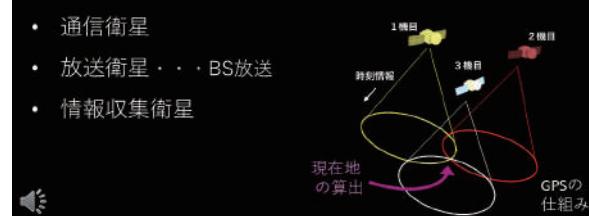


恒星が速く遠ざかるほど、
水素などが出す光が
赤い方にずれて見える



人工衛星の種類

- 天文観測衛星・・・「ハッブル宇宙望遠鏡」など
- 地球観測衛星
- 気象衛星・・・「ひまわり8号」など。静止軌道を周回
- 測位(GPS)衛星・・・「みちびき」など
- 通信衛星
- 放送衛星・・・BS放送
- 情報収集衛星



上：宇宙の科学Iより。

下：宇宙の科学IIより。オンデマンド形式になったことで、繰り返し聞くことが可能になり、理解を深めやすくなりました。

column 1 ムサビ生の課外での活動をご紹介します。



mauleaf

コンセプトは「ムサビの「いま」を知る、わたしたちの広報誌」。学生が中心になって取材や執筆、編集をして、キャンパスライフを楽しく・便利に・充実させるヒントを発信するメディアです。WEBサイト掲載記事より、本誌再編集版を掲載します。mauleaf web版は、右記QRコードリンク先よりご確認ください。

<https://www.mauleaf.jp/>

学生の「小さなやりたい」を形に

武蔵野美術大学と無印良品により共創されたOpen Marketとは?

市ヶ谷キャンパス1階、MUJIcom 武蔵野美術大学市ヶ谷キャンパス店に併設されているコーヒースタンド「Open Market」。実はここ、コーヒースタンドとしてハンドドリップコーヒーを提供するだけでなく、学生による「小さなやりたい」を形にする場にもなっています。どのような経緯で「Open Market」をつくったのか、運営の草薙多美さんにお聞きしてみました。

“学生のやりたいことを形にする”場

Open Marketは2019年の7月にオープンしました。お店に立つ草薙さんは、普段はコーヒーと音楽で空間を創る「Sunny's coffee & music」というユニットでバリスタとして活動。Open Marketでもメインの役割はバリスタで、カウンターに立ち、ハンドドリップのコーヒーを淹れてお客様に提供しています。

でもそれ以外に、実は“ファシリテーター”という肩書きも持っています。Open Marketはコーヒースタンドであると同時に、ここを訪れる方のやりたいことややれることを形にできる場でもあるのです。

これまでに実現したのは、地域の方にも参加してもらうマルシェや筆で絵を描くワークショップ、秋田のおばあちゃんたちの味噌で楽しむ「汁bar」などさまざま。企画を練ったり、どういった日程で進めていくのかも、草薙さんが一緒に考えています。これまでには相談という形でラフに訪れる方がほとんどで、持ち込み企画が多いそう。今もさまざまな学科のムサビ生とこれから行われるイベントを企画されています。

「アートやデザインに限らず、Open Marketから何が生まれるかというのを私は大切にしたくて。幅広い「小さなやりた

い」をやってみようよっていうと、やっぱりジャンルが広がりますよね。」と草薙さんは話していました。

Open Marketがつくられた経緯

Open Marketは、武蔵野美術大学と良品計画が学びと小売の流通を掛け合わせて、今までにないものを社会に出すための共創スタジオをまずはつくりたいという構想から始まりました。その中で、大学でも企業でもない、余白のある場所をつくりたいという想いが生まれ、このOpen Marketが誕生したとのことです。だからこそ、大学教職員でもなく、無印のスタッフでもない草薙さんが、大学から委託を受けて運営しているのです。

草薙さんは、訪れた方の求めることとOpen Marketのできることが紐付くようなきっかけが生まれること、興味関心を持ってもらえる方が増えることを願い、日々活動されています。

皆さんもぜひ一度、Open Marketへ足を運んでみてはいかがでしょうか?

取材・執筆・編集：芸術文化学科2年 石崎美智

Information Open Market

営業時間：11:00—19:00
(水・木・金のみ営業)
住所：〒162-0843
東京都新宿区谷町1-4
MUJIcom
武蔵野美術大学市ヶ谷キャンパス内
電話：03-5206-3390
アクセス：JR／東京メトロ有楽町線、南北線／都営地下鉄新宿線
「市ヶ谷」駅より徒歩約3分



column 2 ムサビ生の卒業後の活動をご紹介します。

むさびと 武蔵美人

"むさびと"とは武蔵野美術大学を卒業し各方面で活躍している人達のこと。
企業への就職、独立、制作活動……、形は違えど皆社会に出て頑張っています。
このコラムでは企業で活躍する若手の"むさびと"を取り上げ紹介しています。
ムサビ生の卒業後の可能性や広がりを発見してください。

社会を支える産業の中に美しく有益なかたちを送り出す

プラザー工業株式会社 開発センター総合デザイン部プロダクトデザイングループデザイナー

中野憲希さん（2016年工芸工業デザイン学科卒業生）

私が入学した年から、工芸工業デザイン学科ではCADやレンダリングツールの習得がカリキュラムに導入され、そこで実践的な知識や技術を身につけることができました。プラザーを知ったのはインターン募集を見たことがきっかけです。個人向けのホビーマシンから巨大工場で稼働している産業機器まで、その幅広さが面白いと感じ、志望しました。プロダクトデザイナーとして採用され、入社早々、担当したのはプラザーの祖業ともいえるミシンや、カッティングマシンといった家庭用製品のパーツやアクセサリー。ムサビで学んだソフトでの作業だったのも幸いし、構造を考え、デザインすることにはすぐ慣れましたが、プラザーとはこういうものづくりをする会社かと実感し

たのはその先。どんなパートでもたくさんの人にモックや実機で試して意見をもらい、操作性や視認性をブラッシュアップしていくという細部へのこだわりが、使いやすさに直結するのだと身をもって学びました。今は産業用プリンターのデザインをメインに担当しています。工業製品やパッケージに消費期限や製造ロットなどを射出プリントする印刷機で、製造ラインでの使われ方によって、外観の構造や材質を変える必要があります。さまざまな課題をひとつひとつ検証しながら、最適な形状や工法を探っていくのもプロダクトデザイナーの仕事。社会を支える産業の中により美しく、有益なかたちを送り出すことをこれからも真摯に続けていきたいと思います。



プリンターの機構を内蔵し、モニターも兼ねる軽量なデザインは、何種類もの工法を考案した結果、継ぎ目や溝の少ない設計が採用された。



ムサビの就職支援 プロの指導で完成度を高める「年間ポートフォリオ講座」

美大生にとって、自分の作品を冊子にまとめた“ポートフォリオ（作品集）”は、自己PRのために欠かすことができないツールです。特にクリエイティブ系の就職活動では、履歴書やエントリーシートと同じくらい重要視される傾向にあります。ムサビではそんなポートフォリオの作成をサポートするプログラムを2010年から実施しています。

2021年度より、デザイナーをはじめとし

たクリエイティブ職を目指す学生を対象に、クリエイターの養成を支援する企業と共同で年間を通じた新たなポートフォリオ指導プログラムを始めます。ポートフォリオの意義や作成方法はもとより、制作の過程における自己分析やポートフォリオを使ったプレゼンテーションの習得までを目標としたプログラムで、学生のレベルアップを図り内定獲得につなげます。

また、クリエイティブ系企業のアートディレクターやデザイナー、人事担当者にご協力いただき、業界のニーズの解説や、各自のポートフォリオについて直接指導を受ける機会を設けます。そのことによってブラッシュアップを図り、さらに内定者の発表会や展示会でポートフォリオのつくり方や捉え方のエッセンスを共有するなど、就職活動に効果的なプログラムを展開していきます。

NEWS 1

ムサビの感染症対策

授業実施方針について

造形総合科目、学科別科目、造形構想基盤科目、専門基礎科目のうち、実技科目については原則として対面方式で実施いたします。演習科目、講義科目については科目によって開設方式が異なりますので各教育単位（研究室）からの指示に従ってください。

対面方式での実施にあたっては、これまで実施してきたコロナ感染防止対策をさらに進めるなど、感染予防に十分に配慮します。ただし、通学事情や本人を含めたご家族の健康状態等を考慮し、希望者にはオンラインでの受講を可能とする対面とオンラインの併用方式（ハイブリッド方式）にて実施いたします。

文化総合科目（全学共通科目）のうち講義科目については原則としてオンライン方式での実施となります。一部の実技・演習科目については対面方式での実施となります。

コロナ禍の収束は依然として見通しが立たない状況ですが、どのような状況であっても本学は「ムサビ生の学びを止めない」を基本方針とし、質の高い教育を提供できるよう最善を尽くして参ります。皆様のご理解とご協力を何卒宜しくお願ひいたします。

新型コロナウイルスに関する本学の対応と対策について、最新情報は以下webサイトよりご確認ください。
<https://www.musabi.ac.jp/covid-19/>



NEWS 2

インフォメーション

鷹の台キャンパスに新工房棟誕生

鷹の台キャンパスの北校地に16号館が誕生しました。16号館は主に工芸工業デザイン学科インテリアデザインコース、大学院造形構想研究科映像・写真コースが使用する工房棟です。地上3階建てで、延床面積は約3,400m²。制作スタジオ、作業場、木材・金属加工・デジタル工房や実験室・測定室、映像演習室のほか、プレゼンテーションルームや会議室、教員の研究室などを有します。



撮影：長谷川健太

造形構想研究科造形構想専攻

博士後期課程を開設

2021年4月より大学院造形構想研究科造形構想専攻に博士後期課程を開設しました。造形構想研究科は、本学が独自の造形教育と教養教育で培ってきた高度な「創造的思考力」を修得した上で、さまざまな社会問題の解決や新しい仕組みづくりに強力なリ-

ダーシップを発揮する人材、もしくは芸術とテクノロジー分野を融合し、映像・写真分野を中心に新たなメディア表現と社会装置化によって創造的イノベーションを起こしうる人材の育成を目指しています。この博士後期課程では、分野横断的かつ超領域的な新しいサービスやビジネスの創出、新たなメディア表現や文化価値の創造に向けた、より高度な「創造的思考力」の応用発揮について研究し、徹底した実践とマネジメント教育によって、広く社会問題の解決手法の研究や新たな人倫価値の創出を推進しうる人材の養成を目的としています。本課程に3年以上在学し、必要な単位を修得し、博士論文の審査に合格すれば、博士（造形構想）の学位が取得できます。

「令和3年度入学式

令和2年度入学生とともに」を挙行

2021年4月5日、オンライン中継にて「令和3年度入学式 令和2年度入学生とともに」が挙行されました。式典の後には、新入生向けに学科ごとのガイダンスが実施され、学生証の交付等が行われました。



情報メディア教育の基盤を担う

情報教育センターを設置

情報教育センターは、本学における情報化の推進と、これからの中等教育に求められる情報メディア教育の基盤形成を担うために設置された新たな教育機関です。本学の学生が履修する情報表現科目的授業運営の拠点となるだけでなく、日本画・油絵・彫刻学科対象のデザイン科目的授業運営、データサイエンスやAIなど情報関連科目やメディアアリテラシー教育の充実化の推進、オンライン授業を円滑に進めるための支援を行います。また、教育・研究・業務支援のための情報環境基盤の高度化、整備、充実を図ることも目的としています。

webサイト「武蔵野美術大学

卒業・修了制作 優秀作品集」を

公開しました

武蔵野美術大学では造形学部（通学課程）の卒業制作における優秀賞受賞作品を紹介する『造形学部卒業・修了制作優秀作品集』を刊行してきましたが、このたびこれをデジタル化し、webサイト「武蔵野美術大学 卒業・修了制作 優秀作品集」として公開しました。

以下webサイトよりご確認ください。

<https://selected.musabi.ac.jp>



2020卒業・修了制作 優秀作品集

武蔵野美術大学
卒業・修了制作 優秀作品集

卒業制作の優秀賞受賞作品を紹介する電子版の卒業・修了制作優秀作品集です。



2020年度事業報告および

2021年度事業計画を公開しました

以下webサイトよりご確認ください。

<https://www.musabi.ac.jp/outline/disclose/report/>



NEWS 3

本学関連施設展覧会情報

2021年8月後半—2022年3月の予定

美術館

大学美術館として美術作品やデザイン資料などの収集と保存、データベースの構築、展覧会の企画、開催、図録の刊行などの活動を行っています。

武蔵野美術大学 鷹の台キャンパス内

<https://mauml.musabi.ac.jp/museum/>

月—土 [祝除く] 10:00—18:00 [土・特別開館日は17:00閉館]

※9月20日 [月・祝]、23日 [木・祝]、10月31日 [日] は特別開館日



※会期や時間等は変更になる可能性があります。最新の情報は右記webサイトをご確認ください。

川口起美雄——I'll be your mirror *1

9月6日 [月]—10月2日 [土]

ART-BOOK: 絵画性と複製性

9月6日 [月]—10月2日 [土]、

——MAU M&L貴重書コレクション×Lubokの試み *2

10月18日 [月]—11月13日 [土]

牧野良三——舞台美術における伝達と表現

10月18日 [月]—11月13日 [土]

助教・助手展2021 [仮]

11月29日 [月]—12月18日 [土]

民俗資料室

民俗資料室は民俗学者・宮本常一 [1907—1981] [1965—1977本学教授] の指導により

収集された約9万点の生活造形資料をコレクションの中心としています。

収蔵資料の活用と公開を目的に企画展を開催しています。

武蔵野美術大学 鷹の台キャンパス内

<https://mauml.musabi.ac.jp/folkart/>

収蔵庫見学 火・木



展覧会 月—土 [水除く] 10:00—17:00 ※下記の会期限定

※会期や時間等は変更になる可能性があります。最新の情報は右記webサイトをご確認ください。

民俗資料室ギャラリー展示29

10月25日 [月]—12月18日 [土]

運ぶ——文化とかたち

※11月23日 [火・祝] は特別開室日

gallery α M

本学が運営するノンプロフィットギャラリー。ジャンルを問わず質の高い表現と可能性を有するアーティストに作品発表の機会を提供すること、社会に斬新な価値を発信できるキュレーターに展示企画の場を提供することの2点をコンセプトとしています。

東京都千代田区東神田1-2-11 アガタ竹澤ビルB1F

<https://gallery-alpham.com/>

火—土 [祝除く] 13:00—20:00 ※夏季休廊: 8月1日 [日]—8月23日 [月]

※会期や時間等は変更になる可能性があります。最新の情報は右記webサイトをご確認ください。



約束の凝集 [ゲストキュレーター: 長谷川新]

6月18日 [金]—9月22日 [水]

vol. 4 荒木悠 *3

10月2日 [土]—12月18日 [土]

vol. 5 高橋大輔

αM+ vol. 2 わたしの穴 美術の穴

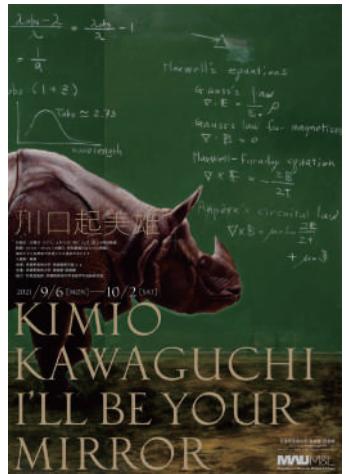
2022年1月—3月開催予定

美術館・図書館からのお知らせ
杉浦康平デザインアーカイブ
特設サイト
「デザイン・コスモス」を公開!



世界中から信望を集めるグラフィックデザイナー杉浦康平氏。「デザイン・コスモス」は、杉浦康平氏のデザイン作品を三次元空間に託して提示するウェブ版ヴィジュアル作品集です。第一弾として公開するのは美術館・図書館所蔵「杉浦康平デザインアーカイブ」より杉浦氏が厳選したブックデザイン作品186点。どなたでも自由にアクセスできます。

https://collections.musabi.ac.jp/sugiura_kohei/



*1 川口起美雄——I'll be your mirror



*2 ART-BOOK: 絵画性と複製性
——MAU M&L貴重書コレクション
× Lubokの試み



*3 約束の凝集 vol.4 荒木悠

2021年度学事予定

7月	19日—9月4日	夏季休業
9月	6日	後期授業開始：鷹の台 第3ターム授業開始 [—10月16日]：市ヶ谷
	20日	敬老の日は授業日
	23日	秋分の日は授業日
10月	18日	第4ターム授業開始 [—12月25日]：市ヶ谷
	29日—31日	芸術祭 [オンライン開催]
11月	23日	勤労感謝の日は授業日
12月	18日	後期授業終了：鷹の台
	20日—25日	後期補講・講義科目定期試験週間
	27日—1月8日	冬季休業
1月	10日	成人の日は卒業制作・論文の提出・採点日
	13日—16日	卒業・修了制作展
2月	未定	東京五美術大学連合卒業・修了制作展 [日本画・油絵・版画・彫刻] [国立新美術館]
3月	18日	卒業式

*上記予定は変更になる可能性もあります。

最新情報は右記大学webサイトをご確認ください。

<https://www.musabi.ac.jp/>



お問い合わせ先

事務取扱時間 9:00—16:30 [昼休み12:40—13:40、日・祝除く]

下記事項などについて質問がございましたらお問い合わせください。

お問い合わせ先が分からない方は代表（総務チーム）までご連絡ください。

総務チーム 042-342-6021

内容	お問い合わせ先	連絡先
本誌について	広報チーム	042-342-6038 koho@musabi.ac.jp
学籍、授業、試験、成績 教職・学芸員課程、単位互換 卒業制作展	教務チーム	042-342-6044
学費の納入	経理チーム	042-342-6042
奨学金 学生生活・課外活動	学生生活チーム	042-342-6028
健康相談、健康診断	保健室	042-342-6029
進路・就職、インターンシップ	キャリアセンター	042-342-6048
留学、留学生サポート、国際交流	国際チーム	042-342-6041
入学式・卒業式	教学企画チーム	042-342-6011
美術館、図書館 民俗資料室、イメージライブラリー	美術・図書チーム	https://mauml.musabi.ac.jp/
gallery α M	gallery α M	https://gallery-alpham.com/

表紙写真 作者紹介

表紙では、本学助教の作品をご紹介します。

助教とは各研究室において、

学生の指導や、教授の職務補助などを行う教員で、

学生にとっては身近な存在です。

濱田綾音

HAMADA Ayane

工芸工業デザイン学科 助教

2017年 武蔵野美術大学

工芸工業デザイン学科 陶磁専攻 卒業

卒業制作優秀賞

象嵌の技法を用い、「草むら」シリーズと、

「どうぶつ」シリーズの器を中心に制作。

展覧会での作品発表やギャラリー・

ショップへの卸などで販売を行っている。

〈作品についてのコメント〉

こどもの時に育った八ヶ岳の草むらや、

冬の林に現れるシカ、飼っていた犬、

今まで会って来た動物たちの

味わい深い表情を、模様の源にしています。